



釧路市立博物館に異動して

平成31年4月より釧路市立博物館に異動になりました、花田淳と申します。はっくんが印象的なホームページやフェイスブックで情報は見ていましたので、どんな職場なのか興味がありました。

異動してあつというまの半年でしたが、私が感じた博物館を書いていきたいと思います。4月は企

画展「写真展・あの頃の釧路」では、年齢層が高い釧路市民の皆さんが昔をなつかしんで、思い出話に花を咲かせ楽しそうでした。5月からは、連休がまったくない事に戸惑いながら、初めてのクルーズ船の外国人対応。こども日の「博物館で遊ぼう」では、各学芸員が講堂でブースを広げ、こどもに教えている姿に魅力を感じました。この後、トンコリコンサートも、今まで聞いたことのない優しい音色に癒されました。企画展「すてきな昆虫たち」では、展示以外に蛸がごづくりにも挑戦させて戴いて、昔の風情に触れることが出来ました。企画展「あなたとカラス

とおつきあい」では、身近な野鳥のカラスの生態を知ることが出来、苦手だったカラスを好きになりました。展示も写真・映像で解りやすく、被り物やおみくじなどオリジナリティの高さに驚きました。

各学芸員が、企画展や講座を構想し、資料を整理し、アイデアを生産して着地点を探る作業をして開催していることが解りました。

私は事務方なので、事業や展示に直接関わりは有りませんが、大好きになった博物館が今後も存続出来る様に微力な努力していきたいと思います。

(花田 淳)

リムセヤ〜!

私が釧路に移住してきて3年が経とうとしていますが、釧路管内の各地域を中心に、アイヌの方々主催する儀礼に参加する機会が多くなりました。“アイヌの儀礼”とひとくちにいても、近年は多様な目的のためにおこなわれており、一言でその性格を言い表すことはできません。参加する際には、儀礼によっては厳粛な気持ちで臨むべきものもありますが、それに付随するいろいろな愉しみがあります。そんな愉しみの一つに、踊りの鑑賞があります。踊りの鑑賞、というのは本来ふさわしい表現ではないかもしれませんが、アイヌの歌や踊りは、本来その場に居る人たちが一緒に参加して楽しむものだからです。“観光地”で見せて

いる踊りであったとしてもその意識が通底していることは、来場者に踊りへの参加を促す場面が必ずあることからわかります。

アイヌの踊りは、「アイヌ古式舞踊」として国の無形民俗文化財やユネスコの無形文化遺産にも登録されていますが、道内各地に保存会という組織があり、その活動のなかでその地域の歌や踊りが伝承されています。釧路では歌、特に座り歌をウポポと言ひ、多くは女性によって伝承されてきているものです。また、踊り(歌)はリムセと言ひ、その性格や踊られる場面は様々で、カムイに捧げられる重厚なものから、余興的なもので各種あります。アイヌの儀礼に、このような歌と踊りは欠かせませんが、ある地域で開催される儀礼には、他の地域の保存会が招聘され、そこで踊り比べがおこなわ

れるのが通例です。そういうわけで、釧路に居ながらにして、毎年違った地域の踊りを見ることができ、その地域性や、同じテーマの踊りないし歌でも異なったバリエーションを発見するというおもしろさがあります。

さて、釧路の春採地区は、多くの著名なアイヌ民族を輩出した地域でもあり、口承文芸や芸能も、この地で育まれた文化として確かに残っています。しかし、近年は担い手不足が少々深刻で、先に書いたような踊り比べの際に、釧路がかつてのような豊富なレパートリーを披露できないという現状は少し残念にも思われます。釧路で演じられていた踊りや歌には、近隣の地域へ伝わっているものもありますが、より一層伝承の輪が広がることを期待しています。

(城石 梨奈)